

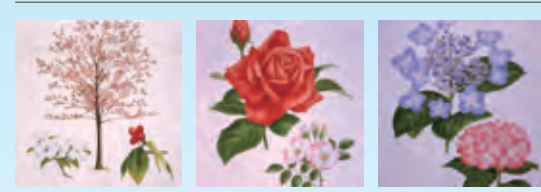
港区
平成25年度受賞施設

みどりの街づくり賞
景観街づくり賞



赤坂Kタワー
赤坂地区総合支所
THE ROPPONGI TOKYO
麻布地区総合支所
港区役所
芝地区総合支所
国際医療福祉大学三田病院
高輪地区総合支所
NFD花ファッションハウス
大門シガレット
友愛会館
芝浦港南地区総合支所

港区の木・花



ハナミズキ バラ アジサイ

みどりの街づくり賞

港区環境リサイクル支援部 環境課
港区芝公園1-5-25 / 電話:03-3578-2331

景観街づくり賞

港区街づくり支援部 都市計画課
港区芝公園1-5-25 / 電話:03-3578-2211



港区みどりの街づくり賞とは・・・

港区では、昭和54年度から建築計画に伴う緑化計画書の提出を義務付け、緑化の指導を行ってきました。緑豊かな都市づくりには、公共の緑とともに、民間施設の緑化が重要な役割を果たしています。

「港区みどりの街づくり賞」は、優れた緑化計画を行い、その緑地を維持している区民や事業者の皆さんを表彰し、地域緑化への協力に感謝を示すとともに、さらなる民間緑化の発展を願って、平成16年度に創設され、今年10年を迎えました。

概要

表彰の対象となる施設

- ア 前々年度に完了した建築計画に伴う緑化施設で、港区みどりを守る条例施行規則の緑化基準を原則満たしており、緑化完了届が提出されているもの
- イ 港区みどりの活動員により推薦された施設で、■ア以外のもの

選定基準

学識経験者、都市緑化に造詣の深い区民及び環境リサイクル支援部長で組織する選定審査会が、以下の選定基準を基に決定します。

- ① 周辺の景観と調和し、優れたデザインであること
- ② 維持管理が適切に行われていること
- ③ 自然環境の保護と再生に努めていること
- ④ 建築物と植栽地がバランスよく配置されていること
- ⑤ 既存樹木を活用していること
- ⑥ 生き物にやさしい植栽計画になっていること
- ⑦ 在来植物を取り入れていること
- ⑧ 地域社会とのつながりを持ち、地区への貢献が高いこと
- ⑨ 先進的な技術を取り入れていること
- ⑩ 施工と仕上がりの水準が高いこと

賞の種類

1. みどりの街づくり賞 3点(■アを対象とする)
2. 特別賞 2点(■イを対象とする)

詳細は毎年度選定審査会で決めています。

港区景観街づくり賞とは・・・

港区では、平成21年度に「港区景観条例」を施行し、景観行政団体となって、景観法に基づく取り組みを始めました。そして、良好な景観形成を図るべく「港区景観計画」を策定し、同計画の景観形成基準に沿うよう、区民や事業者の皆さんにご協力いただいています。

「港区景観街づくり賞」は、良好な景観形成に功績のあった優れた民間の施設や活動を表彰することで、広く景観に対する意識の向上を図るとともに、魅力ある街づくりを推進するため、平成23年度に創設しました。

概要

審査

港区景観審議会委員等からなる、6人の選定審査委員

景観街づくり賞

審査対象

表彰を行う年度の前々年度に、港区景観条例に基づく完了報告書が区に提出された民間施設のうち、特に良好な景観の形成に功績のあったもの

選定基準

- ① 周囲からの見え方に配慮があり、周辺の街並みと調和しているもの
- ② 建築物、植栽等がバランスよく配置されており、憩いと安らぎを創出しているもの
- ③ 地域特性を生かしており、まちの魅力の向上に貢献しているもの
- ④ 地域社会とのつながりを持ち、区民等への貢献が高いもの
- ⑤ 都市景観の創造に先導的な役割を果たしているもの

賞の種類

1. 景観街づくり賞
2. 景観街づくり賞奨励賞

景観街づくり賞特別賞

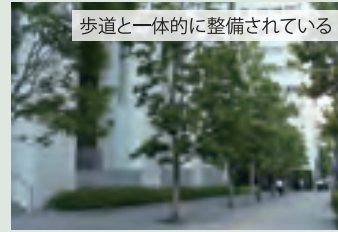
「景観街づくり賞特別賞」は、港区景観条例による届出対象以外の、良好な景観形成に功績のあった施設や活動に対し、感謝の意を込めて表彰します。

目次

港区みどりの街づくり賞・港区景観街づくり賞とは・・・	1
平成25年度 みどりの街づくり賞 受賞施設・昨年度の受賞施設	3
みどりの街づくり賞受賞施設 Before・After ～平成16年度受賞施設の現在～	5
審査委員総評 ～みどりの街づくり賞によせて～	6
平成25年度 景観街づくり賞 受賞施設・これまでの受賞施設	7
平成25年度 景観街づくり賞特別賞受賞団体	9
審査委員総評～ 景観街づくり賞によせて～	10

平成25年度 みどりの街づくり賞 受賞施設

みどりの街づくり賞



赤坂Kタワー

- 所有者: 鹿島建設株式会社
- 設計者: KAJIMA DESIGN
- 所在地: 港区元赤坂1-2-7
- 施設用途: 事務所・共同住宅・店舗・駐車場
- 敷地面積: 5,121.21㎡
- 緑化面積: 1,368.71㎡
- 接道部緑化延長: 203.74m
- 緑化面積率: 26.7%
- 接道部緑化率: 89.3%

施設概要

総合設計制度を用いて敷地の概ね5割を地域に開放し、さらに、青山通りの歩道や周辺区道と一体的な整備を行うことで、街に開かれた親しみのある緑の空間をつくり出している。

特に、東側の広場は、様々なサイズ、四季折々の表情を楽しめる多様な樹種の高木を中心に植栽しており、見通しと入りやすさを確保しつつ、豊かな緑を感じられる空間となっている。広場の中央にはベンチと水景施設が設置されており、屋時には食事や休憩で憩う人々の様子がみられる。

みどりの街づくり賞



THE ROPPONGI TOKYO

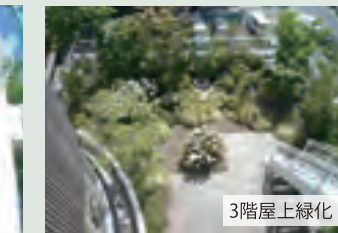
- 所有者: THE ROPPONGI TOKYO 管理組合
- 設計者: 株式会社日建設計
- 所在地: 港区六本木3-7-1
- 施設用途: 共同住宅・店舗
- 敷地面積: 5,741.22㎡
- 緑化面積: 2,214.55㎡
- 接道部緑化延長: 290.57m
- 緑化面積率: 38.6%
- 接道部緑化率: 87.3%

施設概要

六本木通りの広さに引けを取らないクスノキの大木の並木、季節の移ろいを感じながら歩くことのできる東側の通り、シラカシの並木と生け垣で落ち着いた空間を演出する住宅エントランスのある西側の通り、とそれぞれの通りの性格に沿った植栽が適切に配植されている。

また、南側には、季節の彩りや香りを感じさせる数十種類の草花や樹木、青々とした芝生の広場を配し、繁華な六本木の中で緑の安らぎと潤いを感じられる空間をつくり出している。

みどりの街づくり賞



NFD花ファッションハウス

- 所有者: 公益社団法人日本フラワーデザイナー協会
- 設計者: 株式会社ピーエス三菱一級建築士事務所
- 所在地: 港区高輪3-19-34
- 施設用途: 事務所
- 敷地面積: 346.84㎡
- 緑化面積: 52.47㎡
- 接道部緑化延長: 10.75m
- 緑化面積率: 15.1%
- 接道部緑化率: 69.3%

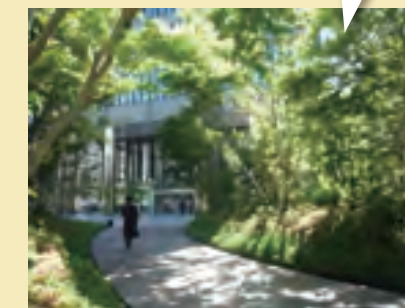
施設概要

小さい敷地の中で、道路沿いや壁面、屋上などをうまく利用して、四季折々の花を楽しめる樹木や草花をバランスよく植栽している。

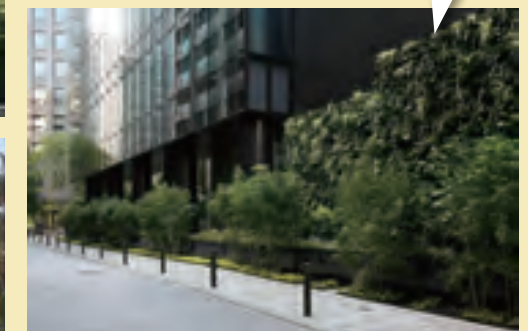
特に、白を基調とした落ち着いた外観の建物に白いバラの壁面緑化が印象的である。近隣に住まう人々もこのバラが咲くのを楽しみにしており、この施設が緑を介して地域に溶け込んでいる様子がうかがえる。

昨年度の 受賞施設

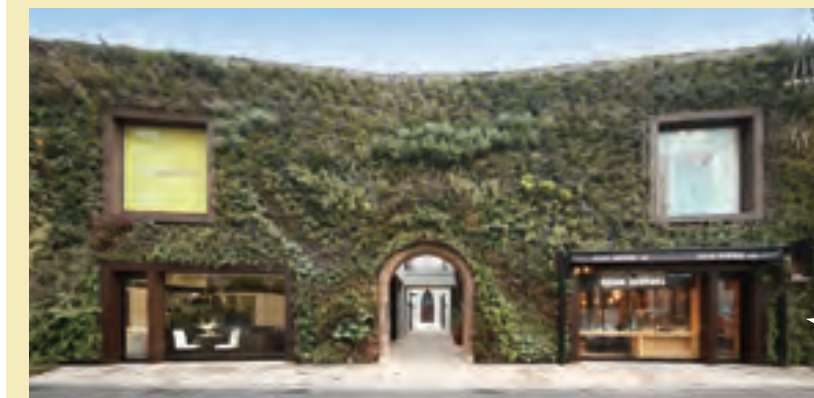
品川フロントビル
港区港南2-3-13



虎ノ門ファーストガーデン
港区虎ノ門1-7-12



南青山
サンタキアラ教会
港区南青山5-5-24



みどりの街づくり賞受賞施設 Before・After

平成16年度受賞施設の現在

品川グランドcommons及び品川セントラルガーデン

所在地
港区港南2-16
施設用途
共同住宅・事務所・店舗



西町ハウス

所在地
港区元麻布2-14-4
施設用途
共同住宅・事務所



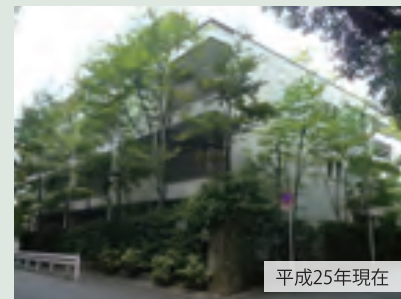
日本基督教団安藤記念教会

所在地
港区元麻布2-14-16
施設用途
教会



ペンブロークヒカワガーデンズ

所在地
港区赤坂6-19-20
施設用途
共同住宅



六本木ヒルズ

所在地
港区六本木6-10
施設用途
共同住宅・事務所・店舗他



審査委員総評

みどりの街づくり賞によせて



千葉大学大学院 園芸学研究科教授

審査委員長 赤坂 信

街を歩く人への配慮とは

みどりの街づくりがめざすのは、何だろう。これはやはり、街を歩く一般の人びとにとってどんな街がいいのかに配慮されていることではないか。建物前に広場を設けているということは、たいてい公道に接している場合が多い。公道といっても複数の管理主体がいて、それぞれがバラバラの作り方をしたのであっては、そこを歩く人は快適だろうか。もし作り手が面倒な管理者相互の調整をいわず実行し、スムーズな歩行者空間を提供できたならそこを利用する人には気づかれないかも知れないけれど、街に対する大きな貢献と評価したい。みどりの手入れも

それぞれ勝手なやり方で進めると、遠目から見るとガタガタになってしまう場合がある。いずれにしても、作り手が使い手のことをどこまで配慮できるかが、街のパブリックなオープンスペースには大事な視点と考える。今年で「みどりの街づくり賞」は10回目を迎える。10年を迎えたかつての受賞作が、今どのように街づくりに貢献しているかを点検してみるいい機会になると思う。



港区景観アドバイザー (株) 佐藤尚巳建築研究所 代表取締役

佐藤 尚巳

みどりの街づくり賞に寄せて

みどりの街づくり賞も今年で10年目を迎えるが、東日本大震災の影響であろうか力作が極端に少なく、寂しい審査会となった。審査対象は9作品で、事前に全作品を現場審査をしていたので各委員から一作品づつ感想やコメントを出し合い、その後採点に入った。結果は上位3作品とその他の作品の差が大きく、一度の投票で受賞作品が決まった。赤坂Kタワーは足元の街路、広場空間が緑豊かで質も高くかつ有効に計画され、特に通抜広場は高層ビル街に安らぎを与えるポケットパークとなっており、多くの市民が木陰に集まっていた。街路樹の緑陰も心地よく映った。NFD花ファッションハウスは、隣接する保育園との関係や、周辺環境全体の中で捉えると屋上庭園と壁面の緑が非常に効果的であることが現地審査でわかり評価が上がった。THE ROPPONGI TOKYOは全周傾斜にある街路に面しているがどの面も街路樹や壁面緑化を適切に配置し、魅力的な街並づくりに配慮してしていた。高低差のある南側広場は段差解消に苦勞しているが、建て込んだ都市環境を十分に和らげていた。



港区景観アドバイザー 日本大学短期大学部 准教授 (有) GAYAMAZAKI 代表取締役

山崎 誠子

地域特性を配慮した緑化

今回の受賞した作品は特に新しい緑化手法というものは無いが、地域が持っている、欠点のものを緑化によりうまくカバーし、新しい魅力的な空間としたものが偶然にも3つ選ばれた。赤坂Kタワーは青山通りという交通量の多く騒音が問題となる幹線道路に面しているが、静かな空間をつくることをこころがけ、地域のオアシスとなるような水と緑の工夫がある。NFD花ファッションハウスはフラワーデザイン協会の建物であることの個性を十分に理解し、低層住宅が密に残る地区に地域の人々に発信する花の緑化が地面、壁面、屋上で効果的に配置されていた。THE ROPPONGI TOKYOは数メートルにおよぶ地盤レベルの差をうまく取り入れながら今までになかった明るい、親しみのある緑の空間をつくりだしている。先進的な緑化もよいが、受賞作のように、地域の特性を十分把握し、地域の景観、地域の人びとへの憩いの空間を作り出す作品が増えることを今後も期待したい。



公益社団法人 観音崎自然博物館 前理事長

高橋 雅雄

時の流れとともにある新鮮なみどりを

この表彰制度も回を重ねて10年ともなると、目を見張るような斬新な作品がなくなるのは止むを得ないことなのかも知れない。その反面植栽の施工技術での機械化の進展や、壁面緑化・屋上緑化での技術改良や多様化には進歩の跡が著しいので今後の都市緑化に大きな期待が持てる。

また昨今新種の植物材料の導入が多いことから、市民への植物ラベルの表示に配慮がほしい。この際あまりくどくどしい表示は避けた方がよい。この制度は施工後2年を経過した物件が審査対象となっているが、その後の継続的な維持管理の良否によっては緑化空間の優劣に差が生じてくるのが造園作品の特性である。従って都市緑化においても継続的で良好な管理育行為に対しては奨励賞的な表彰を検討してもよいのではないかと。常に新鮮な“いのちの輝き”を楽しむために。

平成25年度 景観街づくり賞 受賞施設

景観街づくり賞



赤坂Kタワー

●所有者: 鹿島建設株式会社 ●設計者: KAJIMA DESIGN ●所在地: 港区元赤坂1-2-7
●施設用途: 事務所・共同住宅・店舗・駐車場 ●延べ床面積: 53,777.03㎡ ●高さ: 157.93m

概要

敷地の概ね5割を公開空地にした憩いの拠点の提供
街の魅力を高める沿道整備

審査委員コメント

これまで豊川稲荷まで登るのが面倒に感じた坂道であるが、幅広くなった歩道を中心として、建物の足元の植込みと街路樹が身近さを感じさせ、ゆったりと歩けるようになった。カフェもオープンし、楽しみの多い坂道になりつつある。赤坂と元赤坂をつなぐ通り庭ができて日常の憩いの場としてはもちろんのこと、お祭りの時の集合場所に使われるなど、新しい使い方を生み今後の生活を育む空間の可能性を示した。周辺との意見交換などがうまく生かされた事例であろう。都電に使われていた敷き石の活用もかつて都電が走っていた東京の姿が目に浮かび、場所の記憶を再生するきっかけになりうる。木漏れ日が目に優しい植栽ばかりでなく、通り庭にしつらえられた水の音で青山通りの車の音を弱めるなど、耳にも優しい空間の工夫がみられた。ベーシックな四角い枠の意匠のように見えたが、ビル風緩和の工夫をしているとのことで、坂道に立つビルの機能として好ましい。ビル内のコンビニエンスストアも協力して看板の色の調整も行い全体感をうまくまとめている。

景観街づくり賞



大門シガレット

●所有者: 井上 三代子 ●設計者: アトリエGacoo伊藤雅春一級建築士事務所、(株)ADK
●所在地: 港区芝大門2-4-2 ●施設用途: 店舗 ●延べ床面積: 72.82㎡ ●高さ: 8.04m

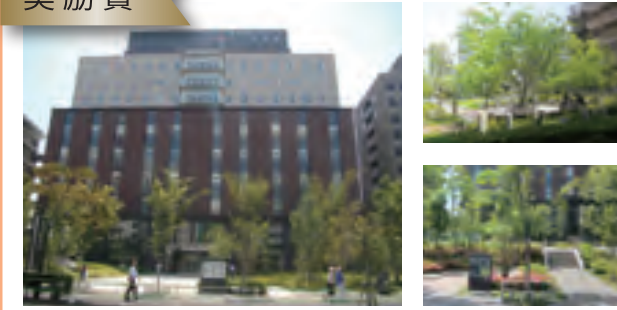
概要

狭小敷地ながら、大門交差点の顔として賑わいの創出に貢献
広告物は建物と一体感のあるデザイン

審査委員コメント

多くの人々が行き交う大門交差点にある「大門シガレット」は1階が煙草の販売店で2階には大人達が都会の喧騒を離れ、一服し、心と体をリフレッシュする自由な空間がある。この分煙環境整備は煙草を吸う、吸わない人の共存社会の実現を目指している。小さき土地のモダンで新しい佇まいは16世紀以降の日本における「たばこ人間の歴史」を彷彿させ、現代社会に欠かせない意味があるように思う。

奨励賞



国際医療福祉大学三田病院

●所有者: 国際医療福祉大学 ●設計者: (株)安井建築設計事務所
●所在地: 港区三田1-4-3 ●施設用途: 病院
●延べ床面積: 36,706.84㎡ ●高さ: 53.2m

概要

地域のポケットパークとして機能する緑豊かな公開空地
落ち着いた外観や隣地の既存樹と連続するケヤキの
列植による街並みへの配慮

審査委員コメント

近年、都心部の有名病院の新築が目立っており、本格的な高齢社会に突入した日本では、病院や高齢者施設は、まち並みの中でも重要な要素になる。病院や高齢者施設には、いち早くホスピタリティの概念が導入され、高い技術と共に、サービス業としての配慮が求められる。今回の受賞事例は、地域に開放された公園のような緑地と広場を前庭として設け、明るく癒される空間をつくることで、不安な気持ちで病院に入る患者の気持ちや病院のある地域の雰囲気や和らげている。これからの病院には、権威より患者の心に寄り添っていることを示す空間が必要である。

友愛会館

●所有者: (株)友愛会館、一般財団法人日本労働会館
●設計者: (株)安井建築設計事務所
●所在地: 港区芝2-20-12
●施設用途: ホテル・事務所
●延べ床面積: 10,001.71㎡
●高さ: 59.45m



概要

建物四周に公開空地を設け、商店街や学校などに配慮
周辺との緑の連続にも配慮した植栽の配置

審査委員コメント

当初、隣接する学校に配慮して車路を商店街側に配置していた計画を景観アドバイザー会議の助言を受け、プランを左右入れ替えて人通りのある商店街側に表を向けた計画に修正している。それだけでなく、建て替えをきっかけに、掲示板の設置や隣接店舗の借景への協力など、それまではなかった近隣の方々との良好な関係を築くことができた点が、「景観を通じてまちをつくっていく」という本賞の趣旨に相応しいと評価された。ただし、前面の公開空地が、作り込みが十分でないのと緑の発育不足のためか、凡庸で素っ気ない印象となっており、そのため残念ながら奨励賞にとどまることとなった。空地という素地は十分にあるので、まちの賑わいや潤いに貢献するような街角空間として、今後の活用を期待したい。

これまでの受賞施設

平成23年度 景観街づくり賞受賞施設



※平成24年度は該当なし

平成24年度 特別賞受賞施設

屋外広告物の撤去・修景の取り組みについて



屋外広告物が撤去された水辺地区(天王洲方面より)



汐留ビルディング

平成25年度 景観街づくり賞特別賞受賞団体

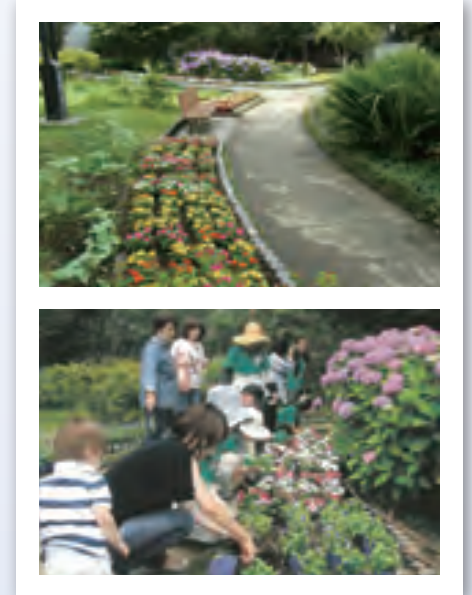
道路・公園のボランティア活動～アドプト・プログラム、区民交流ガーデン～について
 区の道路や公園では、地域の皆さんが主体となって、花壇管理や清掃等を行っています。
 今年度は、港区アドプト・プログラムで5年以上活動している団体と港区民交流ガーデンを表彰します。

アドプト・プログラム、区民交流ガーデンとは・・・
 アドプト・プログラムでは、区内各所の道路や公園において、団体の申請に基づき花壇管理や清掃活動が行われています。また、区民交流ガーデンでは、区立芝公園等の花壇を対象に活動が行われています。

アドプト・プログラム



区民交流ガーデン



受賞団体一覧

団体名	継続年数*	活動内容		団体名	継続年数*	活動内容	
		花壇・植栽管理	清掃			花壇・植栽管理	清掃
港区民交流ガーデン	10	○		芝大門一丁目宮本町会	6	○	
ざくろ坂を花いっぱいにする連絡会	10	○	○	NECネクサソリューションズ	6		○
花と緑の会	10	○	○	エコクラブ	6	○	○
日本ヒューム・ボランティア活動委員会	8		○	花・花芝浦クラブ	6	○	○
新橋赤レンガ通り発展会	8	○		地崎道路(株)	6		○
北四国町会	7	○	○	芝大門一丁目北親会	5	○	
六本木クリーンアップ	7		○	リコーテクノシステムズ(株)	5	○	
東京女学館中学・高等学校ボランティア部	7	○	○	リコーテクノシステムズ(株) MA	5		○
どんぐり公園の集い	6	○	○	高浜運河沿緑地アドプトグループ	5	○	
特定非営利活動法人テクノシップ	6	○		片岡節子(個人)	5	○	
パソナソーシャルアクティビスト	6	○		芝浦二丁目花だんクラブ	5	○	
緑道花壇等	6	○	○	ポケットカード(株)	5	○	
荻野昭彦 他2名	6	○		PIMCO Volunteers	5	○	
新橋はつらつ太陽	6	○	○	アプライドマテリアルズジャパン(株)	5		○
港南緑水会	6	○		高松児童遊園を花いっぱいにする会	5		○
コココーライーストジャパン(株)	6	○					

※継続年数は、平成25年3月現在を基準とします。

問い合わせ

アドプト・プログラムについて	各総合支所協働推進課土木係 / 芝地区 TEL 3578-3131 / 麻布地区 TEL 5114-8803 / 赤坂地区 TEL 5413-7015 高輪地区 TEL 5421-7615 / 芝浦港南地区 TEL 6400-0032
港区民交流ガーデンについて	芝地区総合支所協働推進課土木係 TEL 3578-3131

審査委員総評

景観街づくり賞によせて



港区景観審議会会長 東京工業大学大学院 社会理工学研究科 教授

審査委員長 齋藤 潮

街に対する気遣いに感謝します

平成23年度に完了報告書が提出された施設53件のうち、景観アドバイザーの推薦を受けた施設7件について、審査員が実見の上、6月18日に選定審査会を開催しました。昨年度は授賞無しでしたので、とりまとめ担当としては不安もありましたが今年度は2件に景観街づくり賞が授与されることとなりました。審査会では、審査員による5段階評価の集計結果をもとに協議が重ねられましたが、この2件についてはどの審査員の評価も4以上でした。ひとつは2本の通りの間に位置する超高層オフィスビルもうひとつは街角の小さな店舗です。場所の魅力を高める上で規模の大小は制約にならないことが示され、嬉しく思っております。また、今年度は、新たに奨励賞という枠を設け、どの選考委員の評価も3以上となった施設2件に授与されることとなりました。設計努力に敬意を表します。また、今年度は、新たに奨励賞という枠を設け、どの選考委員の評価も3以上となった施設2件に授与されることとなりました。設計努力に敬意を表します。また、今年度は、新たに奨励賞という枠を設け、どの選考委員の評価も3以上となった施設2件に授与されることとなりました。設計努力に敬意を表します。また、今年度は、新たに奨励賞という枠を設け、どの選考委員の評価も3以上となった施設2件に授与されることとなりました。設計努力に敬意を表します。



港区景観審議会 副会長 (株)日本カラーデザイン 研究所 景観事業部長

杉山 朗子

「まち使い」を考慮した計画が、景観を育む

今回候補に挙がったものの中には、周辺との関係に配慮し、周囲の人に役立つという考えのもとでまとめられた、「まち使い」といった観点を重視したプランがみられました。これまでの単なる「建物」計画ではなく、まちの計画、景観の計画という方向性が実体化してきているように感じました。また、見た目のデザインばかりでなく、触覚や聴覚、時間や季節を意識した、「五感」の快適性を追求して人が気持ち良く感じる空間をつくるというテーマへの取り組みも進んでいるようです。今後さらに、港区のそれぞれの地域の良さを伝え、仕事や遊びなどの生活が生き生きとするプランが増えるのではないかと楽しみが増えました。「まち」や「景観」をどう考え、どうつくるのか、育てていくのか、だんだん工夫されてきているので、区民の方々にも、実際に歩いて、感じていただいで一緒に考えることができれば、港区の景観まちづくりはますます成果を上げられると感じました。



港区景観審議会委員 千葉大学大学院 園芸学研究科 教授

池邊 このみ

建築と緑の調和による相乗効果でまちが変わる

景観賞の審査は、つくづく難しいと思います。昨年は、優秀賞なしでした。景観というのは、あくまで単一の建築物とその外構だけを評価するものではありません。対象となる景観がそこに生まれたことで、その街路、あるいはその地区の雰囲気、佇まい、風格が高まる必要があります。また、景観にもクールな景観と暖かな空間、閉ざされた景観や開かれた景観があり、単一の建築物としてあるいは造園デザインとして美しくとも、その空間の存在により、まちの価値が高まり、その空間を見る人間が心地よく感じるかどうか評価されます。周辺のまち並みはもちろん、まちの歴史、コミュニティ等を分析し、それを空間デザインに活かす技量が求められます。周辺のまち並みが好ましくない場合には、それを変える起爆剤となる場合もあるでしょう。その建物ができたことで、周辺に新しくできる建物のデザインが良くなるような場合現象です。建築物と緑が調和することで1+1=2でなく、3以上となる効果もあります。



港区景観審議会委員 (区民委員)

荒澤 経子

「景観街づくり」こそ「港区の魅力」

2013年港区景観街づくり賞の審査をさせて頂くことになりました。区内に60年以上生活している私にとりましては、施設を建築した人達の思い、施設的环境性、利便性、どれをとりましても甲乙がつけがたい中、私なりの基準「構成と連結」で表彰対象を考えさせて頂きました。いうところの、その施設が、日常性の中で人々の生活の動きがよく出来ていて、施設と人とのつながりを理解しやすい施設を高く評価させて頂きました。今回の評価経験は、今後の私の物事に対する視点を広く豊かにすることだと思います。未来においては、港区の景観がますます向上することを心から願って居ります。



港区景観アドバイザー 東京大学 大学院工学系研究科 助教

古賀 誉章

まちへの思いを形にしていくこと

様々な事物に「心」を見いだすのが日本独特の感性です。そこには、関わった人が込めた「思い」も含まれます。景観も同じでまちに対する姿勢が外観に表れた結果であり、単なる形態の美しさだけではなく、にじみ出てくる作り手や使い手の気持ちを大切にしたいと思っています。今回特別賞に選ばれた長く継続する清掃・修景活動も、まちに対する愛着や心意気の表れのひとつでありまさに「景観まちづくり賞」に相応しいものです。一方、現実には様々な制約で、思いが理想的には実現できない場合も多々あります。その中で、何を大事にして少しでも実現しようと試みたのか、そこに至る考え方やプロセスを評価したいとも考えています。今回の結果は、従前の環境からの変化、紋切り型の計画からの脱却、行政や地域の要望を受けての計画案の変化、周辺地域の方々とのつながりなど、できがったものには表れにくい要素が評価されたと感じました。同時に、このような形に表れにくい情報を伝えていく手段を考えていかねばならないと思いました。